

平成28年度ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒検定結果

表 平成28年度ヒメトビウンカ(第1世代虫)のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率

	調査地点(供試個体数)	保毒虫率(%)	(昨年度)
東部地域	加西市別府町(90)	0.0	(3.2)
	加東市社町(90)	1.1	(0.0)
	加東市滝野町(90)	3.3	(1.1)
	西脇市黒田庄町(90)	0.0	(0.0)
	多可町加美区(90)	2.2	(1.1)
	加古川市志方町(90)	2.2	(3.2)
西部地域	神河町(90)	4.4	(3.2)
	宍粟市山崎町(90)	2.2	(5.3)
	佐用町(90)	3.3	(4.9)
	上郡町(90)	1.1	(8.5)
	平均	2.0	(3.1)

供試虫:平成28年5月24日、6月1日、6月2日にコムギほ場から採取した。
 検定:簡易エライザ法による。平成28年6月8日～6月14日に実施した。

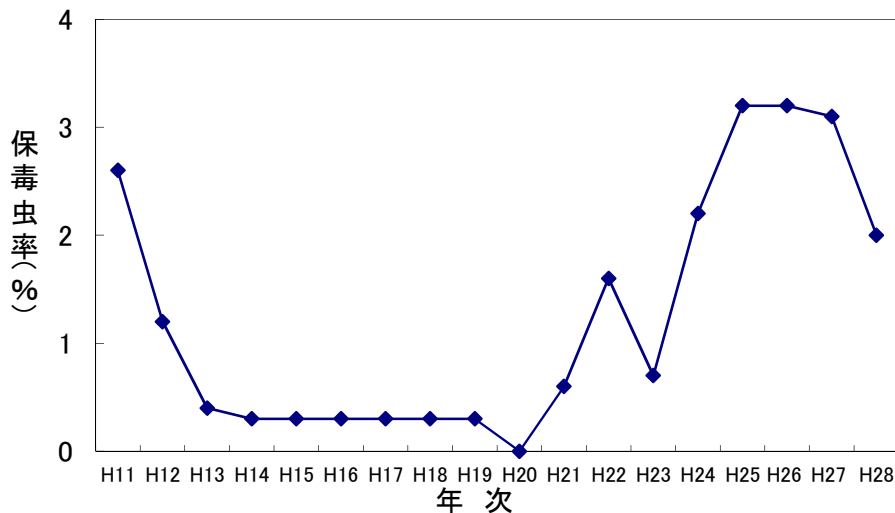


図 兵庫県におけるヒメトビウンカ(第1世代虫)のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率年次推移

イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は、平成21年以降、増加傾向にあり、水稻でのイネ縞葉枯病の発病を警戒している。

本年の第1世代虫(コムギ採集虫)の保毒虫率は、定点平均で2.0%と昨年に比べて低く、発生量はすくい取り10回振りで45.4頭(前年67.1頭)と前年に比べやや少ない状態であった。しかし、ヒメトビウンカの成育は例年より1週間程度早かったため、第1世代成虫が水田へ飛来する期間が長くなり、本病が助長される条件であったと考えられる。また、上表に記す定点以外の調査では、高い保毒虫率と発生量が見られている地点があり(下記参照*)、イネ縞葉枯病の発病には依然として注意が必要である。

*たつの市:2.2%(113.6頭)、上郡町B:4.4%(148.5頭)、姫路市:10.0%(137.8頭)

地点:保毒虫率%(すくい取り10回振り虫数)